

いばらき食品リサイクル研究会

エコフィード茨城協議会

養豚現場でのエコフィードの重要性

2011年2月22日

株式会社 塚原牧場
代表取締役 塚原 昇



プロフィール

1966年生 44歳

環境カウンセラー(環境省)

北海道フードマイスター

1989年 千葉大学 法経学部卒

同 日本合同ファイナンス(株)(現(株)JAFCO)入社

1993年 (有)アクトニー・イチ(現(株)ACT21)入社

1998年 筑波大学大学院環境科学研究科卒(修士:環境科学)

同 (株)アクトニー・イチ(現(株)ACT21)代表取締役就任

1999-2000年 有機質資源広域飼料化検討委員

2002年 (有)塚原牧場設立(現(株)塚原牧場) 代表取締役就任

2004年 (有)膳設立 代表取締役就任

2006年 筑波大発大学院博士課程ビジネス科学研究科中退



塚原牧場グループのご紹介

(株)ACT21

リサイクル飼料販売

塚原農場

『梅山豚』販売

(株)塚原牧場

1990年設立(2002年組織変更)

食品リサイクル飼料製造販売

養豚業(塚原弘=父)

『梅山豚』生産

2002年設立(ACT21より分離)

(2005年組織変更)

『梅山豚』肉及び加工品販売

コンサルティング

養豚家

『銘柄豚』販売

(有)膳

2004年設立

食品(特に豚肉及び加工品)販売



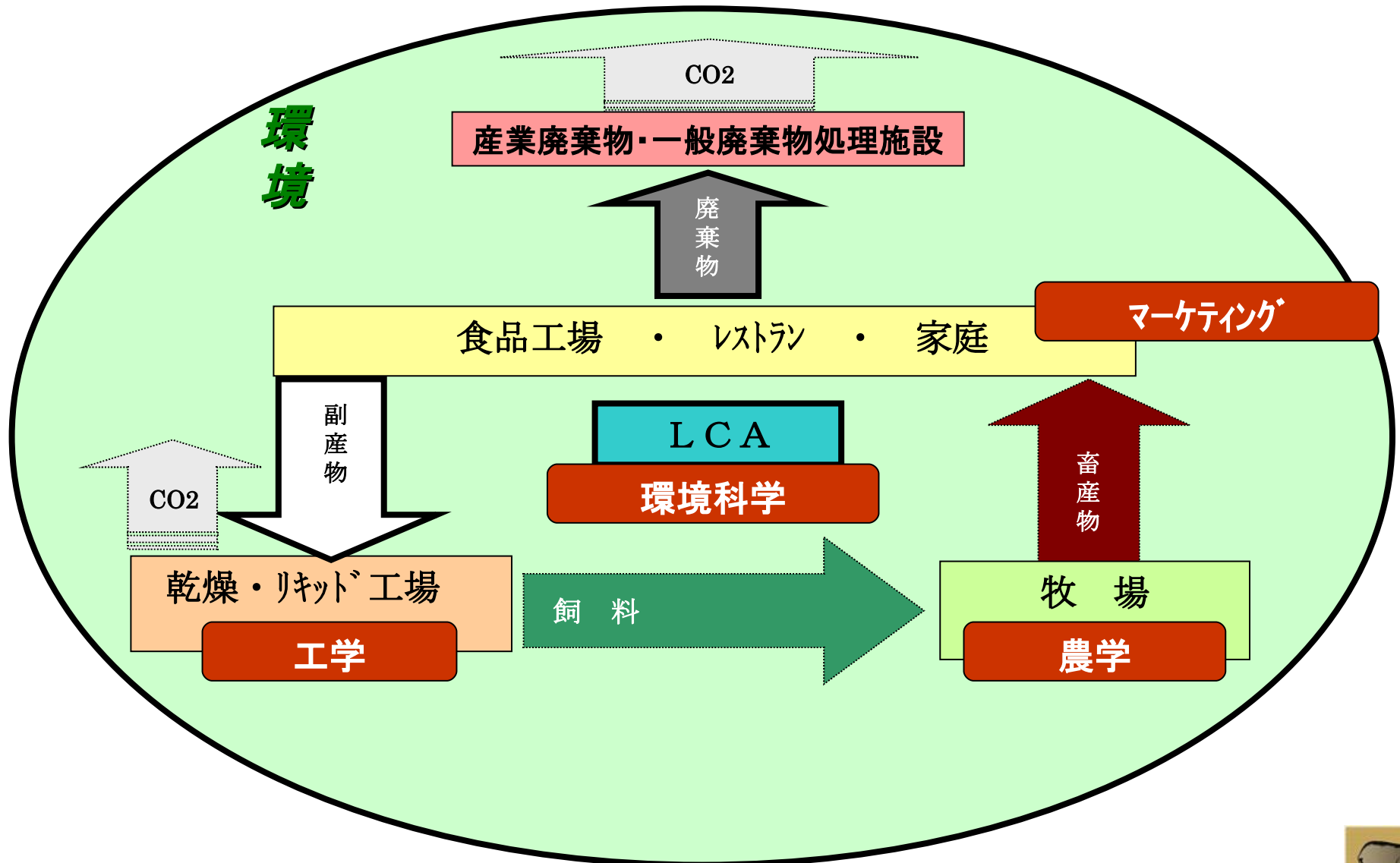
塚原牧場グループの飼料化の取組

飼料原料
(エコフィード)

混合飼料
(①肥育後期・②肥育前期・③子豚)



1. 食品系循環概念フロー



2. 養豚生産コストに占める飼料費

【平成19年度】

- 肥育豚1頭当たりの全算入生産費 34,021円(対前年比8.0%増)
うち飼料費 22,274円(対前年比14.2%増)(生産費の66%)
- 肥育豚1頭当たりの粗収益 34,886円(対前年比7.1%増)
- 肥育豚1頭当たりの所得 4,813円(対前年比1.0%減)

よって、生産費の66%を占める飼料費の抑制が重要

しかし、穀物価格の急騰により飼料費も大幅に高騰する予想

穀物国際価格

\$/ブッシェル	トウモロコシ	大豆	小麦
2011.02.09	7.00	14.51	8.86
2008最高値	7.60	16.60	13.30

3. 飼料原料の高騰の原因

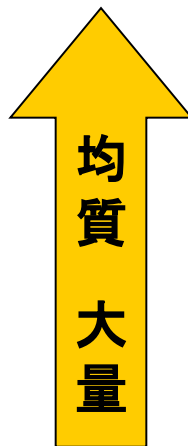
- ①需要の増加と在庫量の減少
- ②気候変動
- ③エネルギー需要の増加
- ④投機マネーの流入

①から④から飼料原料は値下がりしにくい可能性がある

さらに、エコフィード原料も引き合いが強まる可能性大

4. エコフィードの取り組み

今後は、廃棄物からかなりのアイテムが有価物化していく可能性も



- 産業廃棄物
- 農産物
- 事業系一般廃棄物
- 家庭系一般廃棄物



- 新しいアイテムの挑戦
- 新しい飼料化技術の開発
- エコフィード業者との連携

が必要

5. エコフィードの優位性

- 飼料効率が**高い**=成長が早い
- 価格が**安い**
- 地域の特徴を出せる
- リキッドは加工コストが**少ない**
- 肉質にも特徴が出せる

- 水分が高く日持ちが**しない**
- 水分が高く割高なアイテムも
- 大量生産には**向かない**
- 従来の規格に**合わない**肉質も
- リキッドは輸送費が**高くつく**

大量生産—大量消費—大量廃棄の時代は**終わり**

地域資源を活用した

肉質にも特徴のある

コスト競争力のある

養豚経営の時代へ

6. 今後の日本における養豚業

豚肉価格の値上がりなしに、飼料価格のみ値上がりしていくと、国内生産は激減する

輸入豚肉の増加

しかし、世界的な伝染病、気候変動などの要因により国際豚肉価格も値上がりする予想

国産飼料での国内養豚に向かう可能性

エコフィードの高度活用